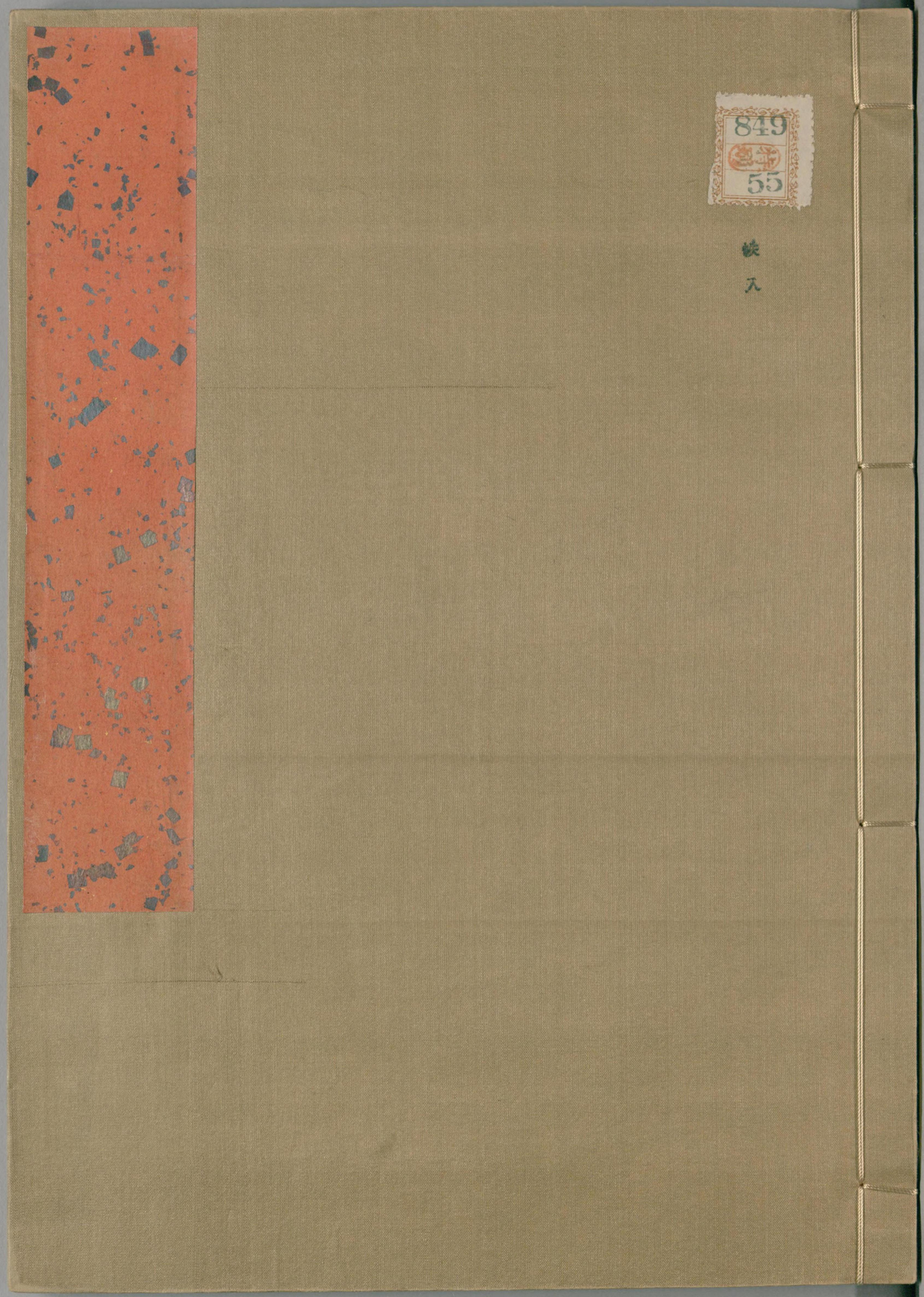


849
55

峡
入

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

地震後世俗語之種

初編之四

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

幸一此書我成をといへども諸人貪の陳腐
とかや其陳を覘て彼賛我もとに筆我採とも
窮をなす時者必心魂逼り世事に照み清貧かな
らば盛貧にして一行も是我兼事ならば
辟百我曲漆を痛食打りて首我長人低迷
誕千尋我流し稼たる袖を濁まなる涙に雪我
後悔多日しおもひといへども風流は道をとつ我
志らば物書事ハ是ありし德の出入や賣取
書其日々の秘は加筆捨繪の事をかりまた

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

849
55
特別

道理なれども道理に於ては何也意なきは習ひぬるは
出来ぬハ乃理と無理こしつ事ハ道理なきハ
小児たましの上繪書一枚二枚をかきして
おいてもこ泊い四枚の数重ね終に願き面目銭
灰にまゐりし折こ曾何れある人来りて喞笑ひ
いらく此書の求就せは編笠ゆゑ御に行
此度信州大地震世に臨らし我次第なり
紙代謝ゆ十六銅とおたゑこかしの答言葉
此時こ終ハ玉の汙後悔恥辱無法より深く心
高義父母乃思澤紙價謝ゆ十六穴と丈の

極りし豆蔵文句口情我なりかぬ我里なし
今社腦銭痛くして責て何ゆゑ乱と見せ
何らはよりや斯よて喞里銭受とる人我銭ゆゑ
志らせるとせるとの数を最初から斯よて界
下志て並たる事銭と既に空鋪秘しておおぬ
又何る人来里等大災まつけいろと苦患の
喞数刻におよそぬ此時風としておの事が存言銭
語りあひこの事後世に及なもかゝる悟談銭
志ゆゑ尽くは喞傳も老人なるは也多様の鳥に
斯社志てりと喞に無しく用事は この

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

汗顔を厭はず此上新らしは子孫に寄折り
ことさら〳〵幼少の童まで讀やすく
いろはのみなるとも仮名斗をつけおきて應
ずる斗の當世にはあらんかぎりは見ゆる
是迄の種になる事もあるべくや他人の
誹謗を何ともせず廿四日の夜此わけ何を此
世かゝる地獄と苦痛絵を書繪本は是を
又いろはに志らぬ見まで物するもの
事ままそひ成しすがしの種にける
為し進みに面して徐あたいろは

志らぬ片言まじり仮名もまじりなればことふ
づけに地水火の三ヶ條をよく含んで書
載たれば覧人のあそなれば仮名を達見
畫圖は拙事を数しるべし

三月廿四日の夜地震火災の
危難数萬の人々群死苦痛乃
全圖并善光寺市町之焼跡廿
六七日頃見ル圖

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』 請求記号 849-55
ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

田畑の中に小屋掛し苫物を持運び或ハ雨露を
凌ぐ番人あつかひを頼ひを断絶し貧老人を
いたはりたる狼狽ものますます多かりき
今往来番所ハ火災をうけたるもの其混雑宮寺ハ
とりわけて焼失せしものも多き人として
驚きあまり人を助くるやうなきことの
防ぎとも出来ず塩爾の中にハ番の
も誰とても手にかけし事を捨置しつゝ物置は
町人までも金銀のやうなる事共をかり明
夜更け刻限の夜々明大かた八方の間の

事ともにて手足を労し身を脳ませし手筆
茅苦のみならず精魂を痛ましめん事を辞退す
家ニ在て父母妻子のつのみにかゝはりて
長く別れ死骸にふれたるとこれを見さる
甚だ大宅の苦患を受るもの其数幾千万と
いふことを知らず問ひ音信するものもなく人一日
一夜潰れたる家の下にありて手力を痛め
漸くに這出でゝ一命助かりしを殊に重るも
残なる怪我したるもいてる医療の便りを受
たる人身の許に経て漸く晦の野中に

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』 請求記号 849-55

ガラス使用

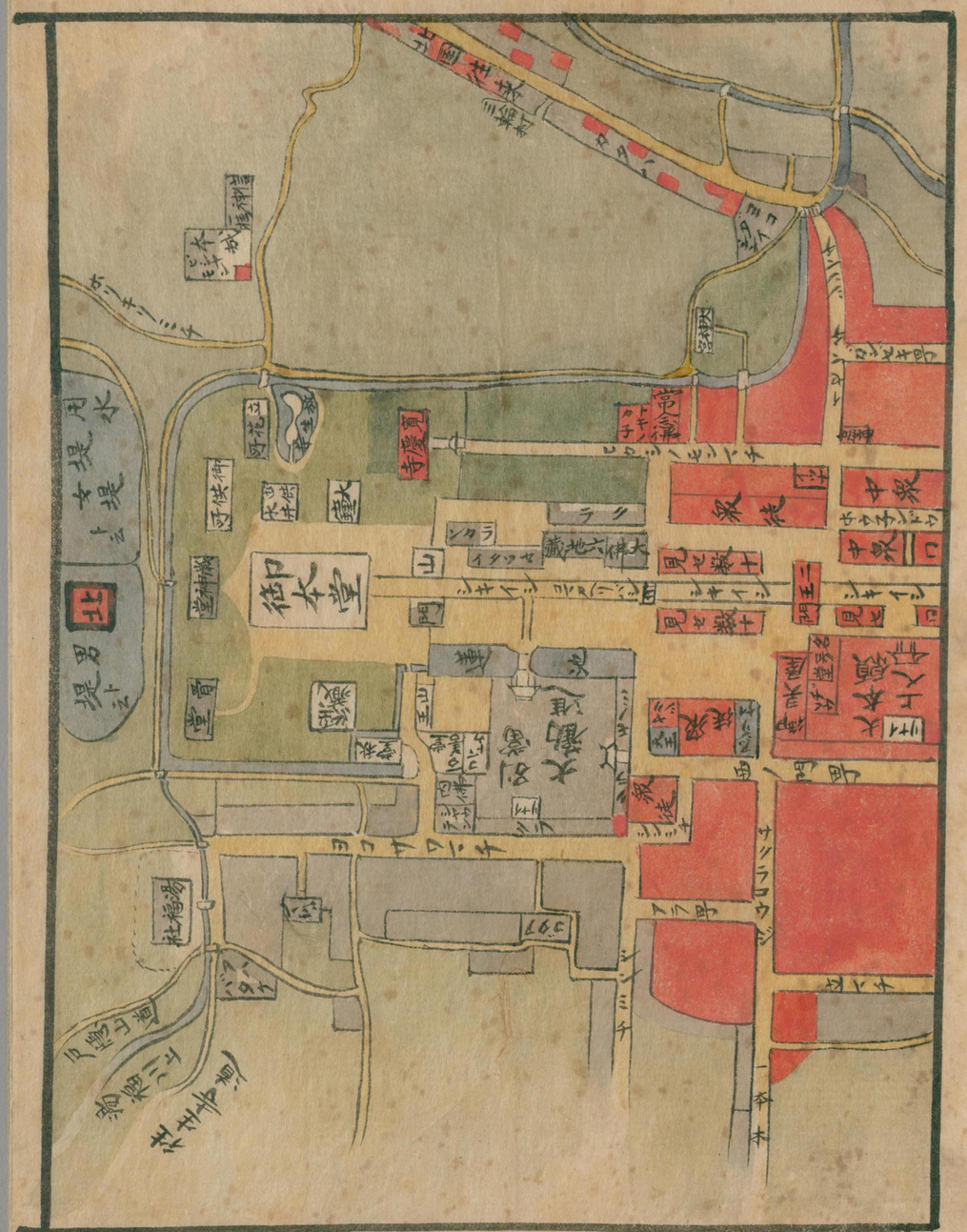
国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

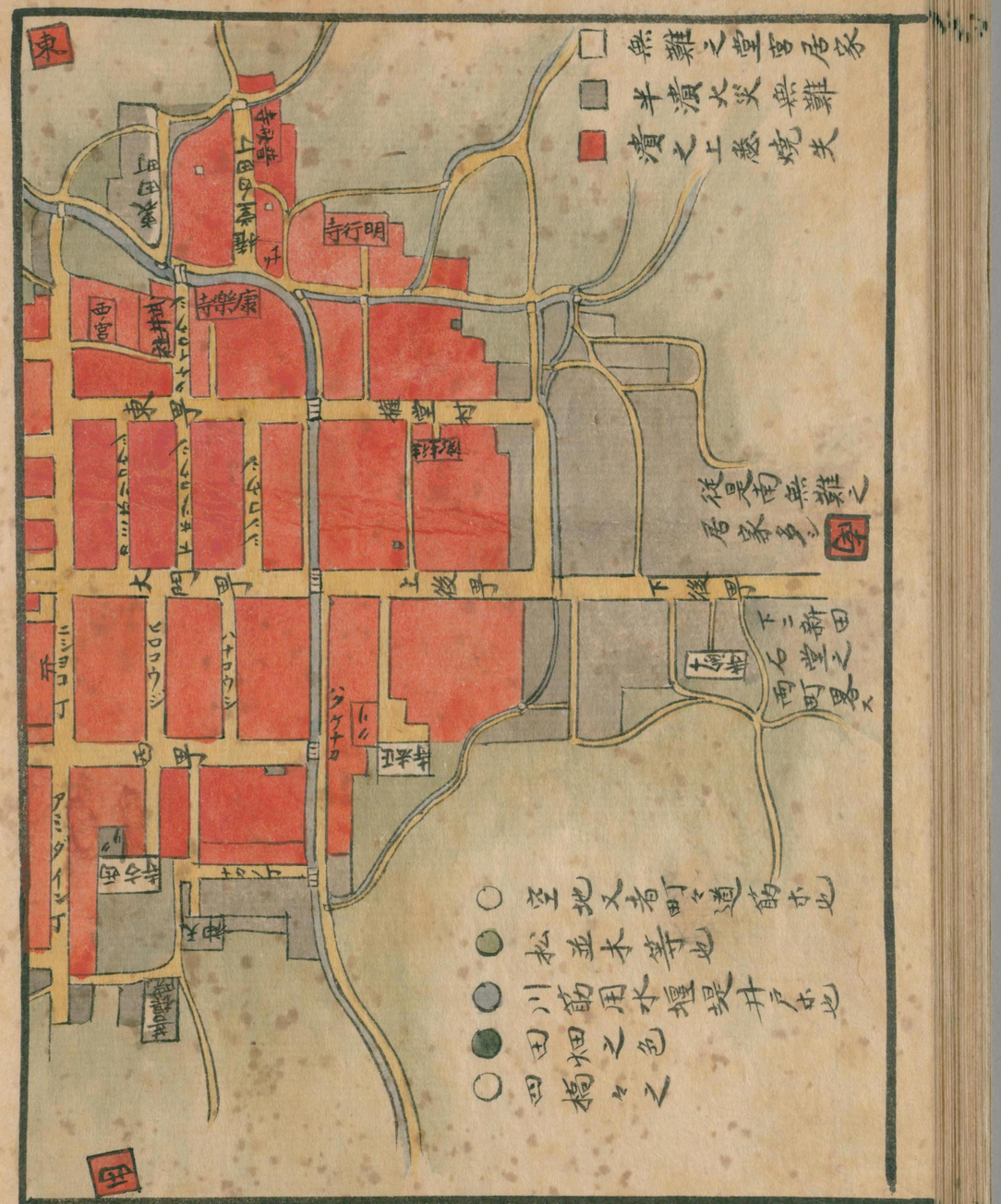
ガラス使用

猶大の勢我降下に陰面にとぢおさへらるゝの
四地なれつゝ五秋に徴へ変に池水火風
空の苦患眼前乃地獄なそろし
かゝしるすとも也

かゝる天変三思儀なる災害なれハ其の廣さ
たゞなる程耳目に及ぶべきに思
竜に畫かゝし日我追て見耳をなす事我
後編まてに記せといへとも九牛の一毛にして
萬分の元とし也微力に於ける

抑廿四日亥の刻災害發してよりこのかゝ
己の身のうへの記せし各他の成行我
ふかゝるに等しく人事實詳のちなる事
に似たれとも是早竟廣大なれとも也
同おのまゝか身のうへの憂艱難の手續我
もつて實録とは他の苦患も斯なまは
推量りて後にも猶恐怖を為し哀
無常ちなる事我思ひて
三災變死諸群霊魂有無両縁菩提并
牛馬有非情草木鳥獸虫類變災菩提





国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

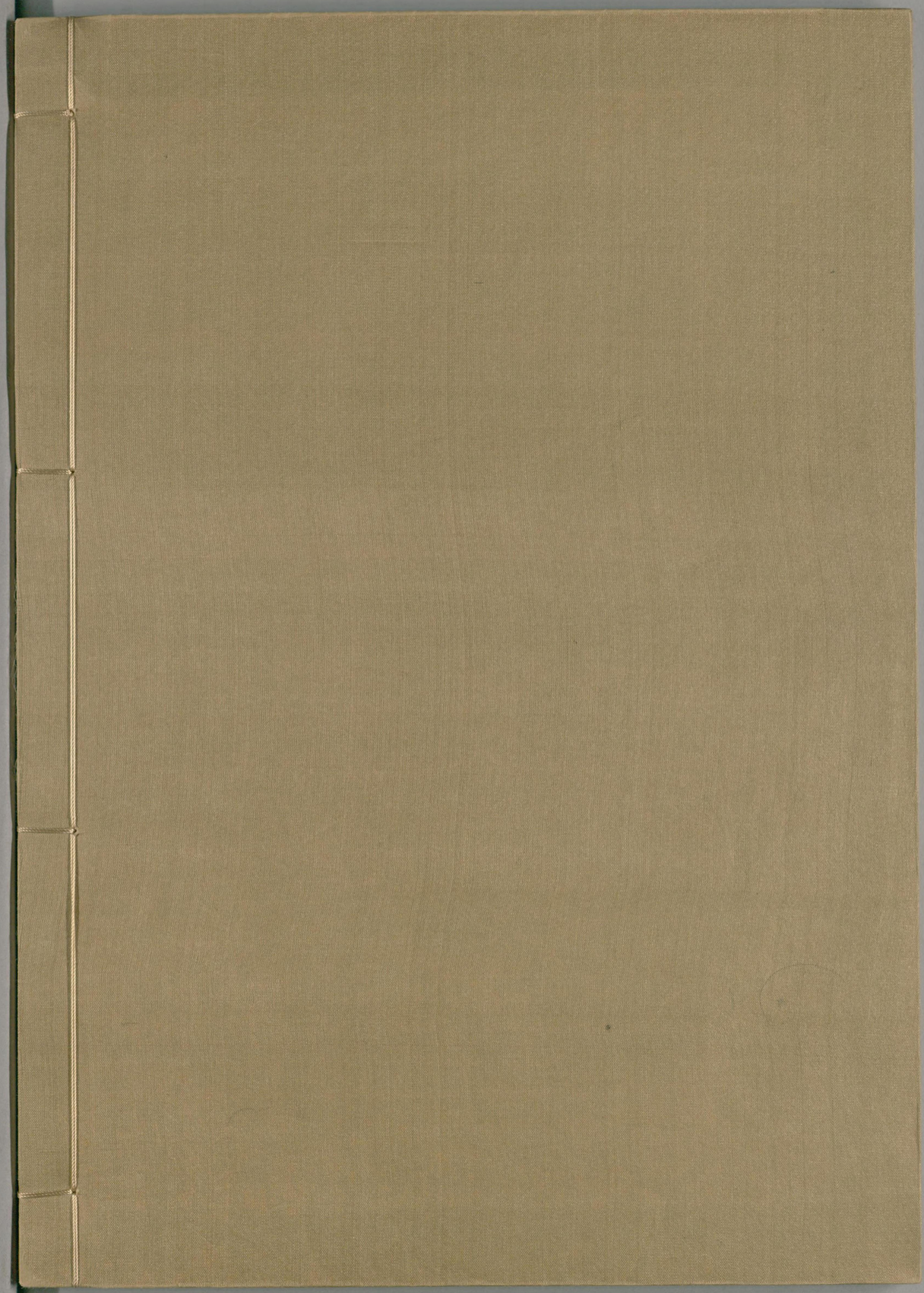
ガラス使用

乃至法界平等利益ニ孫々に至るとも
追善代施を為し教ハ陰悪を鼾せぬし
陰徳を耳せ鳴ニ可如しとこそ
爰に善光寺市町焼跡の圖代出ける事續の
前後感ずるへし翌成申の年代迄をとゝ
思ふしかなりしむ志いまゝ湯のぬくがるつゝ
まさにのちまと其事傳代記し至るなる後代の
子孫俗語の種に便為らんに依て前後を二編
ゆゑ浮むのむ年代綴入るものや

849
55

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』 請求記号 849-55

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用